



郷土史

ていね

第 91 号

平成 27 年 7 月 8 日

手稲郷土史研究会会報

第 110 回(平成 27 年 6 月 10 日)定例会の講演要旨

## 手 稲 の 国 道

北海道開発局札幌開発建設部 藤山 達生 氏



手稲地区の国道の歴史についてご紹介します。国道 5 号について、札幌の国道の始まりは、安政 4 年(1857)の箱館奉行によって開削された銭函から千歳に至る札幌越新道が始まりとされています。国道となったのは、明治 40 年(1907)からですが、はじめは国道 42 号でした。その後、大正 9 年(1920)には国道 4 号となり、昭和 27 年(1952)には元一級国道として、昭和 40 年(1965)からは一般国道となり現在の国道 5 号に至っています。大正 8 年(1919)の道路法施行令では、道路の起終点は市町村の道路元標の位置とされていたので、道路元標が設置されました。現在は使用されていませんが、北海道庁赤レンガ庁舎の門の前に札幌市道路元標が残っていますし、手稲にも手稲村道路元標が手稲コミュニティーセンター敷地内に移設され保存されています。当時の位置が掲載されておりますが、場所をたどると、ちょうど現在の二十四軒手稲通付近で、当時の国道のルートであったことや村役場の場所だったところに設置されていたものと思われます。

昭和 9 年(1934)から改良工事が実施され、手稲本町付近は現在のルートとなり、昭和 30 年(1955)には札幌小樽間が全線舗装となりました。アスファルト舗装が主流となる前でしたので、手稲付近はコンクリートの舗装でした。昭和 28 年(1953)の 12 時間の交通量は 723 台ですが、その後増加する交通に対し、昭和 39 年(1964)から昭和 55 年(1980)まで 4 車線拡幅事業がおこなわれ、コンクリート舗装された部分をそのまま利用し両側をアスファルト舗装で拡幅が行われました。

昭和 47 年(1972)には札幌冬季オリンピックが開催され、札幌西～小樽間まで北海道で初めて高速道路が開通するなど、札幌市内の道路網の整備が一気に進みました。交通量は昭和 40 年(1965)では 9,166 台、昭和 46 年(1971)には約 2 万台と都市の発展とともに増加していました。現在は、すべてアスファルト舗装となっておりますが、その下には当時のコンクリート舗装が今でも残されています。昭和 58 年(1983)には札幌新道、創成川通を経由するルートに変更され、現在のルートとなり、宮の沢から北 1 条西 11 丁目間の区間は道道宮の沢北 1 条線に変更しています。平成 13 年(2001)には札幌～小樽間が全線 4 車線化となり円滑な交通が確保され、地域産業の発展や交流に貢献する道路となりました。手稲地区での近年の事業は手稲本町地区で景観や防災性向上のため電線共同溝の整備を行いました。また、交差点等における交通安全対策事業、舗装の補修等を実施しています。

国道 337 号は、昭和 50 年(1975)に道道小樽石狩線から国道昇格となった路線です。当時は国家プロジェクトである石狩湾新港計画が進められていたことや札幌都市内の交通混雑の緩和のためバイパス事業が進められ、昭和 63 年(1988)に当別町と結ぶ札幌大橋が開通し、順次札幌市内の整備を進めてきました。現在は、地域高規格道路「道央圏連絡道路」として、新千歳空港や苫小牧港を結ぶ道内の人流・物流の効率化や地域間連携を図る重要な路線として事業を進めております。現在、札幌大橋を含む区間で 4 車線拡幅事業を行っており、今年度開通を目指し工事を進めています。

### 次回の予定

次回(8 月 12 日)は榎本洋介氏(札幌市公文書館職員)「札幌市の歴史」の講演予定です。  
会場は、視聴覚室です。

# 分科会報告

## ★ 文芸サークル・開拓史研究部

6月24日、村本健治氏の基調提言をもとに吉村昭の小説「黒嵐」の読書会をしました。

小説の内容に感嘆したことは当然ですが、飛び入りで参加してくださいました菅原直会員からの、幼少時に聞いたという生々しい話もうかがうことができ、また黒の生態など、話は広範囲に及び、いつもながら時間が不足気味の読書会でした。

## ★ 資料部

6月25日に資料部員が集まり、パネル展について打ち合わせをしました。手稲区の9校の小学校に保管されている手稲区歴史資料の写真を展示することになり、学校分担も決まり、展示内容の大綱がまとまりました。

附記：展示会場のアイクルは、10月7・8日、予約できました。

## ★ 手稲石の会

### 手稲鉾山探石会に30人参加、貴重な鉾石採取

会の取り組み第一弾となる「手稲鉾山探石会」は、6月27日、30人の大部隊で実施しました。通称三ツ山立て坑の真上にあたるズリ山までマイカー10台を連ねて登山しました。本会会員はみんな素人ばかりのため、一行の中には、鉾石の鑑定人として本会会員で西区・山の手博物館理事の若松幹男氏ら4人、サイエンスボランティア旭川の3人も含まれています。

ゴーグル、ヘルメットで身を固め、現場に散乱するズリにハンマーを振り上げて果敢に挑戦、不思議な紋様の石を見つけると鑑定人の判定を受けました。すると、重晶石、黄銅鉾など次々名前がつく鉾石が発見され、中には詳細検査をしなければ確定できないとしながら、テルル石と全国的にも希少価値とされる鉾石をみつけた会員もいました。

全員が珍しい鉾石数個を持ち帰りました。立て坑跡を見上げる草むらで昼食、全員で記念撮影、フキ採りを楽しんだ後、現場近くの露頭も見学しました。一部会員は旧鉾山のヤマ神社跡を見学、流れ解散。楽しいひとときを過ごしました。

現場には管理するエコマネジメントの許可なくして立ち入ることはできません。



## 7月の分科会カレンダー

| 分科会名          | 日 程   | 予 定                 |
|---------------|-------|---------------------|
| 文芸サークル・開拓史研究部 | 7月22日 | 「リビングストーン伝」の序（有島武郎） |
| 手稲石の会         | 7月    | 未定                  |
| 資料部           | 7月17日 | 前田中央・前田北小学校の資料見学    |
|               | 7月23日 | パネル展準備              |

## 展示会・講演会のご案内

### ● 《松陰の書》展

新発見！津軽海峡をわたった「松陰の書」私設資料館石狩尚古社所蔵品

公開期間 2015年6月3日～11月3日 AM10～PM5時

会場 石狩尚古社資料館（石狩市本町3）

入館料 無料

休館日 入館者の状況により開館しますので、事前に予約をしてください

（問い合わせはTEL0133-62-3380 中島勝久氏）

# 会員の広場

## 茂内会長 常呂(登)の実家滞在記

稲穂 三國 勲

以前、茂内会長から常呂の話聞いていて、会長が常呂へ行くというので厚かましくも同行する事にしました。

平成 27 年 5 月 15 日早朝 5 時に迎えに来ていただき出発。不詳軽トラックの旅ならぬ軽バンの旅の始まり。337 号線から 275 号線へ、会長は、いつも走っている道でスイスイ、自分は途中から何処をどう走っているのか解らずじまい。上川の北の森ガーデンで一休み、層雲峡流星の滝見物、大函にて記念写真、石北峠を下ってイトムカ水銀鉱山発祥の地の石碑文を見て、私は「手稲鉱山と殆ど同じ時期に創業し、そして閉山を迎えた鉱山」、イトムカは建屋記念の石碑はあるのに手稲鉱山は全くその地に鉱山があったという痕跡無し、選鉱場のコンクリートの瓦礫が残っているのみ、それも現在は樹木に覆われ見えなくなっている。交通の便もよいので 190 万都市札幌の産業遺跡として残すか記念碑碑文を建立したらよいと思う。

さて話は飛んだが途中、温根湯つるつる温泉で入浴、本当に顔がつるつるになり気分も爽快、北見市内



(登)の実家前にて

で夕食の準備後一路会長の実家へ。登の実家 17 時到着。到着して『びっくり』。話に聞いていたが、周辺を見回しても 360° 林また林、人家全くなし。わずかに木立の間から、丘陵地帯に畑が見えるのみ、会長もすごく辺ぴな(所)常呂……失礼、生活して苦労したのではないかと思います。入植して開拓した御先祖様の苦労が偲ばれます。

周辺の説明を受けて夕食後は、雑談後、22 時頃就寝。

5 月 16 日(土)朝 6 時起床。会長は朝飯前の農作業、自分は家の中の引き戸、扉の閉まり具合の調整等行う。朝食後、やく 1 時間くらい会長宅の周辺を散策、広大な土地、畑、落葉松林、この林の立木は会長が枝払いもしているとか。蕨が豊富なので

沢山採れるのが時期が早かったので私は採集を少しのみ。

晴れた日には、会長宅の近くにある丘陵地帯からは、雌阿寒岳も見えんとか。

昼飯後作業続行、別棟の本の蔵書庫のフードサッシの鍵穴調整、観音開き扉の当り調整。

その後、作業を中断して 15 時 30 分にハッカ公園内の記念館内見学。ハッカに関する資料が沢山展示している。

建屋は地元名士の旧五十嵐邸。建築したのは山中金五郎棟梁、登の会長の自宅を建設したとか、随所に宮大工風の手の込んだ痕跡あり。

その後、会長が通った小・中学校を見に行く。現在も朽ち果ててはいるものの現存していて、大型の農機具等の倉庫に使用している。校庭には思い出の記念樹があり、殆ど枯れ死寸前だが、樹木医が手当して何とか立っているが、添え木もして現在は手当した痕跡もなし、会長の通学した山越えの道もあり。

実家に戻って作業続行、会長農作業、その後、17 時 30 分に会長が五右衛門風呂を沸かす。居候の私が一番風呂に入ってゴメンナサイ。私は、五右衛門風呂に初めて浸かった。なかなか気分がよく満天の星空とはいえないが、薄暮風呂もよいものでした。その後、少し作業をし、夕食、22 時 30 分就寝。

5 月 17 日(日)5 時 30 分起床。朝食前の作業後、会長五右衛門風呂沸かす。またもや自分が一番風呂。朝靄の中で朝日を浴びての風呂は又各別。辺りに人影はなし。ゆったり気分が入浴(ゴクラク、ゴクラク)朝食後作業開始、また 11 時 30 分に別地区の集落に住む実兄の家を訪問。端野資料館見学。ノントの湯で入浴、名前の由来は端野の反対でノントという。その後、家へ戻り、会長農作業、自分は蔵書庫の床の隙間塞ぎ本宅で、三段棚を垂木 4 本立てて組み立てる。

会長と二人で作業終了 20 時 45 分。夕食後 22 時 30 分就寝。

【次頁へ続く】

## 連載『生き物たちとの触れ合い』

星置 村元 健治

### ①「桃太郎爺、キジを連れ歩く(?!)」

私は歴史（郷土史）も好きだが、自然とくに「生き物」との触れ合いも大好きだ。  
今回からささやかな体験だが、私がこれまで出会ってきた素敵な生き物、自然などを紹介したい。  
第1回目は、最新の珍しい出会いから紹介。

この冬(3月)のことだ。朝夕、家の近くを散歩していたが、この日の朝はいつもと違っていた。

いつものコースを歩いていると、歩道の横にオスのキジが立ち止まっていた。

逃げそうもないので、声をかけると近寄ってきた。2～3m先まで寄ってきて、コッココッコと鶏のように鳴いた。そのうちに更に近づき、膝元 40～50 cm程までに近寄ってきた。私はビックリして『どうした、お前はどこから来た』としきりに話しかけた。それにはもちろん応えなかったが、そのうちに私の膝を突き始めた。突かれると結構、痛いので、『駄目!! 突くんでない!』と叱りつけた。

それでも隙あらば突こうとするので、逃げるためその場を離れ、散歩を続けた。

てっきり付いてこないと思ったが、それが付いてくるのである。しかも一定の間隔をおいて私の前に行ったり、後ろに行ったりする。そんな滑稽なというか奇妙な状態が往復で 200mも続いたろうか。人がその光景を見たら、鬼退治に行く桃太郎が家来のキジを連れている姿にそっくりだったのではないかと思う。違うのは、幟（のぼり）もなく、イヌもいなかったが、決定的なのは桃太郎が元気潑刺の少年に対して、当方は 60 代のしょぼくれた爺だった点である。

しかし、当の本人は、思ってもみない子分を連れて本当に桃太郎気分になることができ、大変、メルヘンチックで、奇妙かつ心温まる体験だった。

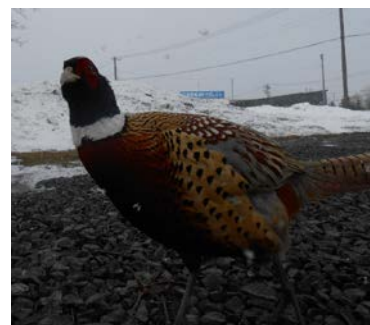
途中で歩みを止めると、再び突こうとするので、私は思わずその都度『駄目! 主人を突くなんてもう子分にしないぞ!』と脅しながら散歩を続けた。

こうした稀にみるキジと私との珍道中がその後、4～5 回ほど続いたのであった。

(写真説明)

上段 キジとツーショットの私

下段 仲良くなったキジ



### 【前頁より】

5 月 18 日（月）5 時 30 分起床、朝食後、後片づけ各電気回り点検戸締りして 7 時 20 分出発。仁頃トンネル～新佐呂間トンネル（ここでは、平成 18 年 11 月 7 日強大な竜巻発生）。会長に竜巻の通過した道筋を示してもらう。ここで 9 名の方が尊い命を落とされました。29 歳から 54 歳の 9 名の方々のご冥福を祈って慰霊之碑の前で拝む。

丸瀬布道の駅木芸館見学、白滝発祥地石碑前で一休み。

白滝ジオパーク見学、黒曜石の石器、矢尻、斧、等々。

途中、大雪トンネル、通過するのに約 3 分『長い』。北の森ガーデンで一休み、旭川紋別道へ入る。

新十津川くじら館で昼食～月形町農林公園で一休み、一路手稲へ、三國の自宅 17 時 20 分到着。

今回、会長の御厚意により登りの自宅に宿泊させて頂き有難うございました。また、往復の道で各所の記念碑、記念館、資料館等へ立寄り時間もかかり大変御迷惑をかけたのではないかと思います。

往復の約 650 kmの車の運転お疲れ様でした。